

# 軟部腫瘍の精査勧められた

**質問**  
30代の男性です。膝のあたりにしこりがあり、軟部腫瘍の精査を勧められました。どのような病気で、もし手術になった場合、どのくらい安静にしておかなければいけないのでしょうか。運転手をしており、仕事を辞めなければならぬのか不安です。



西庄 俊彦  
徳島大大学院  
運動機能外科学講師

**回答**  
軟部腫瘍とは脂肪や筋肉、神経、血管などの軟らかい組織に発生した腫瘍の総称です。「しこり」や「腫れ」で気付くことが多いと思います。

軟部腫瘍には良性と悪性のものがあります。良性であれば切除の必要のないことがほとんどですが、症状や腫瘍の種類によっては手術も考えます。中には悪性でなくても、再発を繰り返すものがあるので注意が必要です。

悪性は軟部肉腫とも呼ばれ、腕や脚の機能だけでなく、命も奪いかねません。もっとも悪性は軟部腫瘍の全体の1%（海外データ）と極めてまれですから、しこりがあっても悪性である可能性は少なく、心配し過ぎる必要はありません。

軟部腫瘍の診療の流れの一例を示します（図参照）。

## 症状に応じ切除や観察

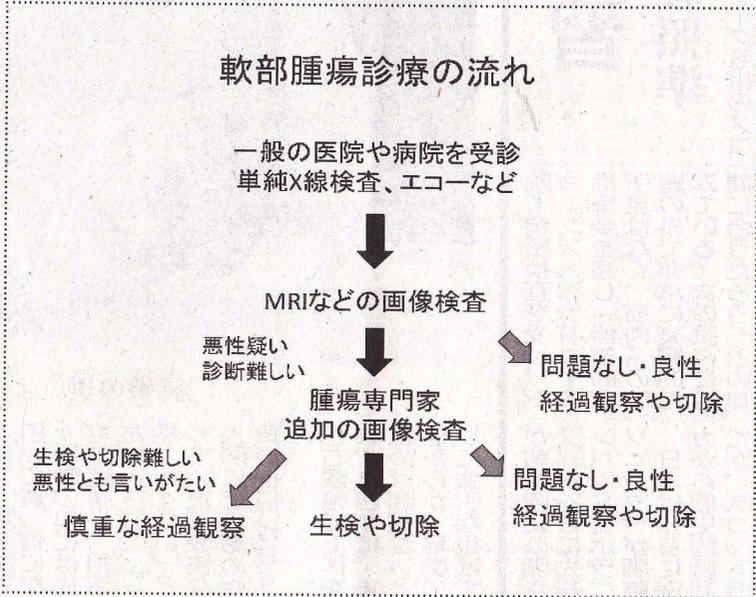


照。まず、しこりに気付いた経過を聞いた上で、単純エックス線写真、超音波検査、磁気共鳴画像装置（MRI）などの画像検査を行います。経過と画像検査

査で診断できることもあります。

良性との判断がつけば経過をみるか、腫瘍だけ切除する「辺縁切除」を行います。診断がつかない場合、専門施設で追加の画像検査や、生の組織を取って顕微鏡でしらべる「生検」を行うことを考えます。

生検の方法は▽針で組織を取る「針生検」▽小手術で一部の組織を取る「切開生検」があります。針生検は外来でできますが、少



量ですので完全に診断できない場合があります。切開生検は針生検より確実ですが、多くの場合は入院が必要で、生検が難しく、良性の可能性が高い場合には慎重に経過をみることもあります。

悪性であれば、腫瘍の周囲に正常組織をつけて切除する「広範切除」を原則行います。切除量は腫瘍の広がり方で決まるので、障害の程度も個々で違います。腫瘍の種類によっては、化学療法や放射線治療を行う場合もあります。

以上から、質問の手術による安静期間や仕事への影響は、腫瘍の種類や広がり方によって違いますので一概には言えません。全くの良性腫瘍であれば、数日の入院と短期間の通院で済みますし、悪性腫瘍であれば長期間の治療が必要でしょう。悪性軟部腫瘍は痛みを伴わないことがほとんどですから、痛みがなくても徐々に大きくなるようなしこりであれば放置せず、早めの精査をお勧めします。

（第4土曜掲載）

◇  
がんに関する質問は徳島がん対策センター（電話088（634）6442）（平日午前8時半から午後5時まで）にお寄せください。詳しくはセンターのホームページ（<http://www.w.toku-gantaisaku.jp/>）をご覧ください。

## 悪性なら長期治療必要